

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(花園中学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学
花園中	下回った	下回った
埼玉県	59	53
全国	58.1	52.5

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	花園中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	92.7	91.7	91.2
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	83.3	81.0	80.7
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	93.8	92.5	92.5
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	77.1	80.7	78.6
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	68.8	69.5	64.3
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	66.7	65.5	63.0
	放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多い	45.8	45.3	46.1
教科の関心	国語の勉強は好きだ	77.1	64.3	64.3
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	93.7	91.4	90.6
	算数・数学の勉強は好きだ	66.7	57.1	57.2
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	76.0	77.6	78.5
主体的対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	84.4	84.1	80.3
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	86.5	71.8	64.8
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	80.2	80.4	75.4
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	88.5	88.7	86.1
その他	自分には、よいところがあると思う	82.3	84.7	83.3
	将来の夢や目標をもっている	85.4	68.0	66.3
	人の役に立つ人間になりたいと思う	96.9	95.3	95.2
	学校に行くのが楽しい。	97.9	85.4	83.8

【質問紙分析】

- ・「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の割合が全国・県の割合と比べて著しく高いのは、3年間を通じてキャリア教育を計画的に行っているからだと考えられる。
- ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」の割合が全国・県の割合と比べて著しく高いのは、各教科の授業においてタブレット端末を用いた資料制作や発表の機会が増えたからだと考えられる。
- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」の割合が全国・県の割合と比べて低い。また、上記の表にはないが「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の割合が全国・県の割合と比べて低い。このことから、授業の中で学習内容を定着させていくとともに、既存の知識に加え必要となる新たな知識・技能を獲得し活用できるような授業改善をしていく必要がある。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○3二「文の成分の順序や照応について」言葉の順序によって正誤や与える印象の違いについて気づくことができた。

○4三「行書の特徴」書初め・硬筆の学習を通して、行書の特徴について理解を深めることができた。

●3一「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」文章をよりよく書くために、材料を意図的に取捨選択することができない。

●2二「具体と抽象など情報と情報との関係について」文章の記述について、その情報同士の関係性について気づくことができない。

【算数・数学】

○7（1） 出題の趣旨「与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかを見る」

最頻値の意味を理解できており、実際の場面で使うことができる力があると考えられる。

○9（1） 出題の趣旨「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかを見る」問題を理解し、合同条件に必要な要素を抜き出すことができている。図形の性質を理解し、証明に向けて必要な情報を見つけることができている。

●7（3） 出題の趣旨「複数の集団のデータ分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかみる」

文章を理解し、実験の内容を数学的に考えることができていると認められる。また、複数の四分位範囲を比較し、その違いが何を示しているのかが理解できていない。

●8（2） 出題の趣旨「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかみる」

一次関数の式とグラフにおいて、灯油を使い切った状態を示すものを理解できておらず、回答ができていると認められる。

【国語】

- ・文章を書く際に、目的をふまえて内容を整理するメモを書く学習を通して、目的に合わせて書く内容を整理する意識を高めていく。書いたものを推敲し、ねらいに合った表現となっているか自己評価する。
- ・説明的文章の学習においては、文章の構成・問いと答えや根拠の示し方など、全体と部分のつながりを意識して要約していく学習を行う。
- ・読む学習で学んだ情報と情報との関係や構成の工夫をもとに、書く活動に生かしていくようにする。

【算数・数学】

- ・授業内容の習得に向け、授業のはじめに本時の内容に関連する既習事項の確認を行う。さらに、定着が見られない生徒に対しては個別の補修を行う。単元の終了時には単元の確認テストを行い、細かく習得できているか見とるようにする。
- ・図形（証明）に関する力を身に着けさせるために基礎的な学習を繰り返し行う。テスト時には、穴埋め問題や、授業で扱った問題を出題するようにし、成功体験を積ませて証明問題の苦手意識をなくすようにする。

【その他】

- ・質問紙の「自分には、よいところがあると思いますか」におけるプラス評価の割合が全国に比べて1.0%下回っている。「当てはまる」と答えた生徒の割合で考えると7.1%も下回っている。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」におけるプラス評価は高い。教師に対する信頼度は高いと考えられるので、本人の自己有用感を高める取り組みをしていきたいと考える。